

トップバッターは高知高退協。高橋さんの尺八でのクラシック演奏、「G線上のアリア」、渋い音色に宴会参加者も目を回していました。続けて川村さん夫婦を前にして「しばてん踊り」を披露しました。川村さん夫婦はしつかり練習、拍手をたつぷり頂きました。

次に高知県退教。森田事務局長のユニークなお話とこれも恒例、種も仕掛けも分からないう藤本会長のマジックショー。徳島県退協は、2名の参加、集会最年長の宅間さんの「戦争反対」の墨による大横断幕を前に「緑の山河」を各退教からもたくさん駆け寄っての大合唱でした。香川県退教は、「私が思う」「社会の矛盾」を一人ひとり大声

でアピール、香川高退協は「若者たち」を秋山事務局長のソプラノも冴え、力強い合唱をしました。ラストは主宰の愛媛県退教、ギターを伴奏に「上を向いて歩こう」の合唱で締めました。土居さん(愛媛県退教)の淀みない進行、伊藤博文さんのギター演奏がよかったです。

高知高退協の何人かのメンバーは、交流会の興奮冷めやらぬ、次の日の成功への打ち合わせに「大街道」へ向かいました。

二日目は、各県からの活動報告です。高知高退協は川村会長が、高退協ニュースを手記に活動報告や連載「妻に叱られて」の紹介、今年度の会員増やしの取り組みなどを愉快に発表しました。

記念講演は、村田武愛媛大学元教授による「農業・食糧・エネルギー問題について」でした。「地域をどう再生させるか」についてオーガニックとビレッジ、ソーラーシェアリング、農園付きグループホームなどの魅力ある話や日本の



農業再生を農家任せにしてはならない、食糧はまさに日本国民の最前線、地域住民主体の地産地消の小規模分散型の循環型産業への転換の必要性などを講演されました。

第一分科会講師の川岡さんと同じく村田さんも愛媛大学元教授で愛媛県退教会員です。閉会行事では、次年度開催退教の香川県から挨拶、全退教四国ブロック幹事(田中高知高退協)が記念講演、分科会、夕食交流会など中身の濃い有意義な会であったこと、成功

に向けて準備された愛媛県退教へのお礼、集まれば力・友情と団結・交流の輪が広がる、25年度は全退教全国ツアーが高知で開催予定・協力を、来年も香川の地で会いましょうとの閉会の挨拶をし、無事に幕を閉じました。

四国ブロック交流集会には、四国各県、6退教から63名、高知高退協からは7人(川村喜美、川村一朗、川村誠司、川村勝子、小松茂弘、高橋哲也、田中正)が参加し交流を深めて、楽しんで頂きました。

迫る制作態度で、絵面の平面性を前提に物の存在をいかにキャンバスに表すかを追求した数少ない作家の一人です。古びた自転車アトリエに置き、ほこりが積もるまで長期にわたってキャンバスと格闘する、あるいは窓から見える高知市瀬戸の山々の風景を毎日毎日見つめ絵の具を載せたり削ったりの繰り返しという、ものの形を2次元性にのっとって追及する態度は、まさにセザンヌのやり方・生き方そのものであった。したがって、作品として完成するまで長期を要するのは数少ない。今回若い頃の作品も数点あり、いずれも誠実に「もの」と対話する河野さんらしきが見えて大変勉強になりました。

とよの森美術館企画展④ 河野 功展



NPO法人アートハウス高知と土佐町が共催する企画展「河野功展」を観に行ってきました。2020年2月に亡くなられた河野先生の初めての回顧展です。高知大の美術の大先輩であり、高校の美術の教員としても職美展や高美展などで大変お世話になり、尊敬する先生の代表作の多くを観



ることができ感激しました。河野先生は近代絵画の父と言われるポール・セザンヌの造形理論に

美術教員仲間では、河野さんと言えれば「自転車」の絵となるくらい有名で、私も「つくし(：)」の2階に置いていた絵を観ながらお酒に酔いしれ、今でも大好きな作品です。自転車の絵1点は生まれた町窪川町の町立美術館に収蔵されています。絵描き仲間からその将来を嘱望されていたが、1983年に散歩中バイクに追突され、視力に重大な障害を負い、絵が描けなくなつたのは残念でならない。今回アートハウス高知の、郷土作家のすぐれた作品を紹介する企画にあたり、代表の吉見博さんをはじめ多くの方々の協力で回顧展が実現できたこと、大変うれしく感謝です。なお、展覧会は一旦終了しましたが、土佐町のご好意で2月いっぱいには常設展として平日13時半~16時までやっていますので、見逃した方はぜひご覧になってはいかがでしょうか。(森 哲実)

